

4. プログラムの運営

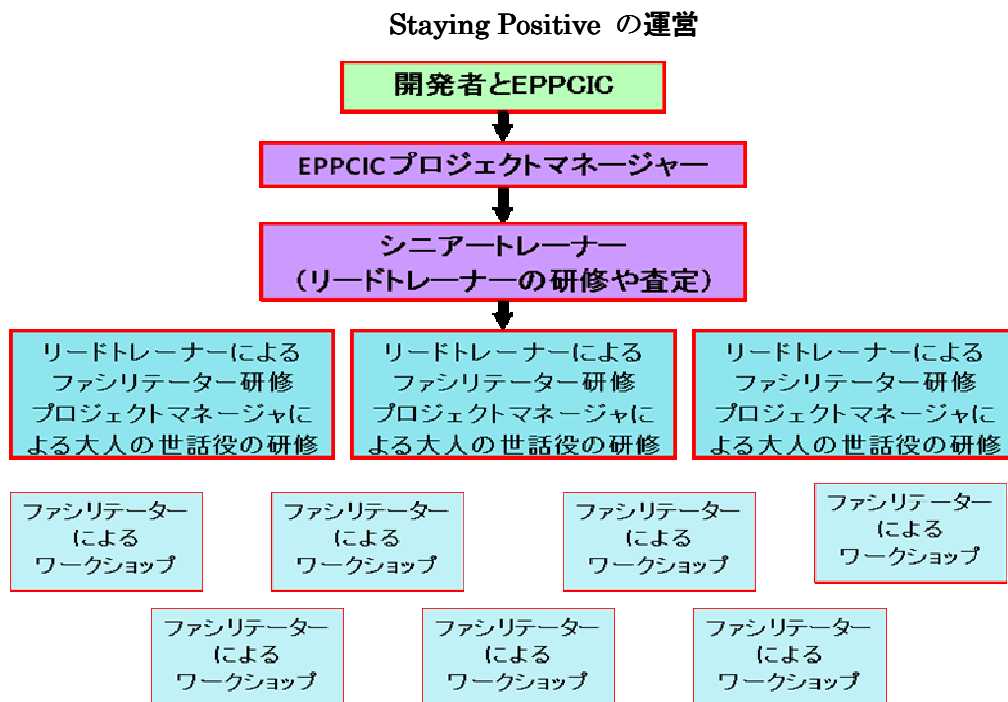
a. ライセンス

おとなの慢性疾患セルフマネジメントの開発者である、スタンフォード大学患者教育研究センターのケイト・ロリック先生より、研究のライセンス(無料)を得て、慢性の病気をもつ子供のためのプログラムを開発しました。開発されたプログラムはスタンフォードのプログラムと非常に異なる体裁になっていたため、スタンフォード大学からは、この子供のプログラムに関しスタンフォード大学は著作権を持たないという取り交わしができました。

今後、日本でイギリスのプログラムを基にして日本語版を開発することがあれば、それに関してはライセンスではなく、Terms and Conditions に同意する形をとり、ライセンス料を支払う必要がない方法を考慮することができますと言われてています。

b. 運営

子供のプログラムは、EPPCICに勤める4人の常勤の職員（2人のリードトレーナー、事務員、プログラムマネージャ）と1人のコンサルタントによって運営されています。2年間で認定を受けたファシリテーターが120人と認定された大人の世話人が80人います。そして、8つの異なる地域でワークショップを開催しています。



c. 運営資金

最初のパイロットプロジェクトは保健省(Department of Health)の助成金により開始され2007年に終了しました。その後、2008年にEPPCIGはV Grantという政府の助成金を得ました、そして、それが来年の4月には終了します。このV Grantの条件としては、EPPCIGが助成金の同額(50%)の運営資金を調達するというものです。

EPPCIGでは様々なセルフマネジメントのワークショップを提供しています(例えば、慢性疾患を持つ大人のため、慢性疾患をもつ人の介護者のため、慢性の病気をもつ子供を抱えた親のため、持続する痛みを抱えた大人のため、麻薬やアルコール依存症から回復期にある人のため、慢性閉塞性肺疾患をもつ大人のため、慢性疾患をもって刑務所に入所している人のため、慢性の病気を持つ子供のため等)。それぞれのワークショップの代価の指針が決められています。2008-2009年の価格表によると、12人の参加者で3日間(1日6時間)のワークショップで募集も含めて6500ポンド、募集を含めないと5700ポンドと規定されています。⁽¹⁰⁾ これらの価格は地域の医療行政担当機関への提示で、参加者はどのワークショップを受けるのも無料です。これらの価格はワークショップ開催にかかる直接経費とプログラムの運営にかかる間接経費を含めたものです。医療行政担当機関との交渉で価格は変わる場合もあるという但し書きがついています。